

# 校長先生の初恋物語

## 第2話 愛の始まり



「とっくん、どうしたの。元気ないのねえ♥」  
やさしく声をかけてくれたのは・・・。  
マンモス小学校のアイドル。学校で一番かわいくてやさしいと言われている、みんなのあこがれよしこさん。ではなくて、なんと、なんと、なんと、なんと、ダンプさんでした。  
「とっくん、初めて同じクラスになったね。それにしても、元気ないんじゃないの。とっくん、友だちいないんでしょ。気が弱そうだもんね。任せといて。ダンプが友だちになってあげるわよ。ふっふっふ。」  
よりによってダンプさんに目をつけられてしまったのです。友だちだなんて、うそに決まっています。友だちと言いながら、とっくんのことをいじめるつもりです。



ダンプさんがとっくんと友だち宣言したため、ほかの男の子たちが、とっくんにまったく近づけなくなりました。とっくんの方から男の子たちに近づいて行っても、ささーっといなくなってしまう。みんな、とっくんの背後にいる、ダンプさんがこわいのです。



休み時間は、ダンプさんが、とっくんのところに来ます。  
「とっくん、外に遊びに行くわよ。ついてきな。」  
「とっくん、トイレに行くわよ。ついてきな。」  
「とっくん、もたもたしないで、早くして。なぐるわよー。」  
朝から帰るまで、ダンプさんにふり回され、くたくたです。これがうわさの、男の子いじめです。気の弱い男の子を徹底的にいじめるといううわさは、本当だったのです。

教室を見回すと、みんな楽しそうです。あこがれのマドンナよしこさんは、友だちとにこにこしながら話をしています。まどの方では、足長君が、ファンの女の子に囲まれて、にやにやしています。そんな幸せそうなよしこさんや足長君を見ていたら、うらやましくなりました。

ダンプさんのせいで、ダンプさん以外の人とはまったくおしゃべりができずに一日が終わりました。

「でもまあ、こんなにつらいのも、今日1日だけだろう。明日になれば、きっとダンプさんもぼくにはあきてしまうだろう。今日一日のしんぼうだ。」

そう自分に言い聞かせました。

次の日、とっくんに新しい友だちはできませんでした。ダンプさんのしつこさは続いていて、それどころか、ダンプさんのとっくんに対するいじわるはひどくなっていきます。

そして、三日目には、ダンプさんが、とっくんにいじめるためにとんでもない提案を口にしてしまうのです。

その日は、クラスの代表者、学級委員を決めることになっていました。決めるといっても、最初から足長君というふんいきでした。だれからもリーダーとしてみとめられ、足長君はみんなのあこがれです。だったら、学級委員は足長君できまりです。足長君も、担任のよろひげ先生も、そのつもりです。それなのに、ダンプさんは、とつぜん立ち上がって、とんでもないことをみんなに言い出したのです。その、とんでもないこととは・・・。

つづく

ダンプさんにつかまってしまい、まったく友だちができないとっくん。そんなとっくんに、次の試練がやってきます。とっくんとことんいじめるために、ダンプさんがクラスのみんなに言った一言とは。その一言によって、とっくんはますますみんなからきられてしまいます。とっくんは、ダンプさんのひどいいじわるに、たえきることができるのか。負けるなとっくん

次回予告 学級委員は誰だ

